



ホームページQRコード

東日本ジャーナル

http://www.jrtu-east.org/

JR東日本労働組合

〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号

TEL (NTT) 03-3453-2107 (JR) 057-2290

発行者/藤本圭一 編集者/嶋田信胤

1部20円(但し組合費を含む)

第七回定期大会開催

新たな中央執行体制のもと、さらなる組織拡大を全組合員で取り組もう!

東日本ユニオンは7月13日「ホテルラングウッド」において「第七回定期大会」を開催した。全大会構成員全席のもと、一年間の運動の総括を行い、JR労働者の力の結集に挑戦し、要求と組織拡大の実現をめざして全組合員で取り組むとした運動方針を満場一致で確立した。

質疑では全十二地本の代表議員の真摯な討論を通じて労働組合として「東日本ユニオン運動」を将来にわたって残し広める決意と、たつて残し広める決意とを要求してきた。

100項目の要求を掲げ、団体交渉において解明の議論を行ってきた。

組合員をはじめ、現場で働く社員の意見を集約し「現行のライフサイクルコース(駅→車掌→運転士)」と「ジョブローテーションコース」の二つのコースを設定し、社員一人ひとりに「安全文化」を継承し、向上させていくことが

社員の希望に添った、選択制の採用を強く求める!

申第三十二号「変革2027を踏まえた新たなジョブローテーションの実施について」に関する申し入れ、組合案に対し団体交渉を開催

中央本部は7月25日、申第三十一号「変革2027を踏まえた新たなジョブローテーションの実施について」に関する申し入れの団体交渉に臨んだ。

今年3月に提案を受けて以降、各地方本部で組合員のみならず、多くの社員から意見を集約し、申第十九号および申第二十号で、計

もに、課題の克服にむけては地方や機関という枠にとらわれず「東日本ユニオン全体の視点を持つこと」を確認できた大会となった。

提起したすべての議案が満場一致で採択され、新たな中央執行体制のもと、スタートを切った。

※大会詳細については、第七回定期大会特集号(号外)参照

現実の制度提案では、自らの夢を実現できる社員と、これまで同様に会社の指示(任用の基準)で受動的に人事運用をされる社員に二分されることとなる。

私たちの要求は、これまで築き上げてきた「安全風土」「安全文化」を継承し、向上させていくことが

歓迎 東日本ユニオンに続々と加入しています!

過日開催された第七回定期大会以降、東日本ユニオンへの加入が続いています。

「変革2027を踏まえた新たなジョブローテーション」等の会社諸施策、労働条件・労働環境に対する不安や不満、共済保険についてなど、一人で抱え込んで悩まず、私たち「東日本ユニオン」にご相談下さい。

ぜひ、東日本ユニオンに加入して、一緒に諸問題の解決にむけて取り組みましょう!

みなさんの加入をお待ちしています!

組合側の主張(要旨)

●経営環境の変化や人材確保を柱とした施策はわかるが、社員の声を集約し議論した結果、概ね10年で異動することを望んでいない社員がいるのも事実である。

●担当線区のプロを残すことも重要であり、2コースの選択制にしても会社側の目的は達成できる。

●30代半ばを超えた断面で10年後の将来像を描きにくい。希望通りにいかない不透明感もあるため、選択制を増やすべきである。

●現職を極めて「安全のプロ」に対しての夢を持つてやっている社員への担保が必要である。

●30、40代での目標が「現地現職」で頑張りたいという社員の夢は叶わないということか。

●鉄道という特殊な専門的な職業であり、今までのライフサイクルのように受動的ではなく、自らが意志を持ち、現地現職でその道を極めていくということも意識変革に結びついていく。意識を持って、車掌や運転士になること

経営側の回答(要旨)

○組合側の提案は理解できるが、新たなジョブローテーションに現行要素は含まれており、十分対応できる。

○多様な経験を積むことも重要であり、現地現職を希望する社員にも無限な選択肢で夢を描いてもらいたい。

○安全が第一であり、無理な異動はしないが、様々な区所を経験し、良いところを他区で伝えてレベルアップを図

○将来が描きにくい社員がいることは認識している。将来に不安を持つ社員に対して、どのような方法、機会を描くようにできるか検討している。

○一人ひとりの個性を活かし、最終的な目標に對して応援する。自己申告書の面談の場で、希望や将来について話し合いを持つていく。

— 藤本新中央執行委員長からお話を伺います。まずは自己紹介からお願ひします。

藤本 第七回定期大会で中央執行委員長に就任しました藤本圭一です。平成三年採用で47歳、習志野運輸区で車掌をしています。

— 前期まで中央執行副委員長をしていました。

— 委員長になられたの抱負や決意をお願いします。

藤本 結成からこれまで前佐藤委員長をはじめ多くの先輩方がつくり、育てていただいた東日本ユニオンを受け継ぐことができたことに感謝いたします。この組織を今までもより強く大きくして次代を担う仲間たちへ引き継ぐことが使命と責任だと思っております。

— 東日本ユニオンの課題は何でしょうか?

藤本 ズバリ、組織拡大です! 結成以来、取り組みを通じて東日本ユニオンは質・量ともに間違いなく強化されています。取り組みの参加人数、職場で発生している課題や制度に対しての問題意識と発信力、交渉力など着実に強化されてきています。

しかし、そのことが組織拡大へとつながりかねない。関係づくりはできるが、加入までいかなるかが現状です。組織拡大とは質と量、量とは数なのです。

踏み込んだ取り組みをしていきたいと思います。

— なぜ、組織拡大が必要なのでしょう?

藤本 労働者である以上、その結集軸は労働組合でなければなりません。労働者の利益は労働組合しか守ってくれません。社友会や親睦会の意義や目的とは全く違います。

— いま、会社から働き方から手当てや制度に至るまで矢張り早く提案されたいことはありますか?

藤本 基本的には今ままで変わりません。強いて

【新中央執行委員長】に



7月13日に開催した第七回定期大会において退任した、前佐藤中央執行委員長から藤本中央執行委員長に替わり、新たな執行体制を確立し、一年のスタート切った。新中央執行委員長を紹介するとともに抱負や決意を聞いていく。

さらに、労働者の目を職場にしっかりと根付かせようということ。問題点や課題は常に職場で発生します。職種や年齢、性別、雇用形態によってその問題点や課題は様々です。全ての労働者の視点から声を上げ、縦横無尽に対応できないから議論をしていきたいと思ひます。

— 委員長として変わりたいことはありますか?

藤本 基本的には今ままで変わりません。強いて

— 最後に一言お願いします。

藤本 2020東京オリピック・パラリンピック開催まで残り一年という重要な時期に入りました。労働者の資本は身体しかありません。「安全安定輸送」はもちろん、健康第一で日常業務に励んでいただきたいと思ひます。中央執行委員一丸となって組合員・ご家族の皆さんの命と生活を守るために奮闘していくことをお約束します。どうぞ一年よろしくお願ひいたします。(聞き手:教育・広報部)

新たに中央執行体制に加わった、執行副委員長を紹介



中央本部長
執行副委員長
工藤 達也

第七回定期大会において中央執行副委員長に就任しました。秋田地方本部出身の工藤達也です。

簡単に自己紹介と抱負を述べてまいります。昭和37年5月生まれで、今年57歳です。職場は秋田総合車両センターで電気機関車

旅費制度の考え方が、明らかに！

中央本部は5月14日に経営側より「賃金制度等の改正について」の提案を受けて以降、旅費を支給されている組合員や社員から疑問の声が多く寄せられたことから、六項目にわたる説明要求を申し入れ、7月4日、申第二十八号「賃金制度等の改正について」(旅費制度の改正に関する申し入れの団体交渉を開催し

組合員同士で助け合う制度 ふれあい共済に加入しよう!

「ふれあい共済制度」は、組合員自身が死亡された際、組合員の相互扶助=助け合いを目的に「遺族年金」として私たち東日本ユニオン自身がつくりだした制度です。

加入者が万が一(死亡・高度障害)の場合、遺された家族(高度障害の場合は本人)に年金を給付し、生活を支える制度として高めてきました。また、一昨年度からはオプション制度の「重病克服支援制度」は三大疾病をはじめとする病気がかった場合、治療費を給付して早期の職場復帰を支援します。

組合員一人ひとりの加入が、自分自身と家族だけではなく、東日本ユニオンの組合員、家族をも支える大きな力になります。組合員のみなさんの積極的な加入をお願いします。

申込み締切 2019年8月31日
※詳しくは各地本もしくは本部までお問い合わせ下さい。

組合側の主張を一切受け入れず！ 今、通勤手当等の見直しに該当しない社員にも スポットを当てるべきだ

中央本部は、6月14日に「通勤手当等の見直しについて」の解明の団体交渉を開催し、経営側の考えを鮮明にしてきた。

社員一人ひとりのライフスタイルや首都圏と地方の交通事情、社宅入居制限など、この間実施されてきている会社施策を鑑みると、日々の業務に影響を与えない、より柔軟で公平性のある制度にする必要があることから、6月21日に申第二十九号「通勤手当等の見直しについて」に関する(基本)申し入れを経営側

に「通勤手当等の見直しについて」の解明の団体交渉を開催し、経営側の考えを鮮明にしてきた。社員一人ひとりのライフスタイルや首都圏と地方の交通事情、社宅入居制限など、この間実施されてきている会社施策を鑑みると、日々の業務に影響を与えない、より柔軟で公平性のある制度にする必要があることから、6月21日に申第二十九号「通勤手当等の見直しについて」に関する(基本)申し入れを経営側

ワンマン運転の拡大について

経営側より提案を受ける

東日本ユニオンは7月24日、経営側より「ワンマン運転の拡大について」の提案を団体交渉で受けた。

私たち東日本ユニオンは系統を越え、①安全の確保、②サービス品質の維持・向上、③経営側が「検討中」としている内容、④設備故障時、異常時の対応、⑤車内の治安維持、車内秩序の維持、⑥営業部門における業務量の変化など、幅広い視点から本施策に対する議論を開始した。

団体交渉における経営側の主な説明(要旨)

○新幹線、特急列車を含むJR東日本全路線を対象とする。
○線区・区間のほか、時

東日本ユニオン全国比例区推薦候補 見事当選をはたす!

7月21日に行われた、第二十五回参議院議員通常選挙は、当日に投票が行われ、私たち東日本ユニオンが推薦していた全国比例区の「もりやたかし」候補は103、273票を獲得し、見事初当選を果たした。

また、各地方本部推薦候補のいる選挙区においても善戦し、4名中3名が当選を果たしている。

組合員ならびに各地方本部に対して、あらためてこれまでの取り組みに対する敬意と感謝を申し上げたい。

〈選挙結果〉

推薦地本	選挙区名	候補者氏名	所属政党	当落
	全国比例区	森屋 隆	立憲民主党	当選
秋田	青森県選挙区	小田切 達	立憲民主党	惜敗
	秋田県選挙区	寺田 静	無所属	当選
仙台	山形県選挙区	芳賀 道也	無所属	当選
千葉	千葉県選挙区	長浜 博行	立憲民主党	当選

和で安心できる生活」と「交通政策課題の解決」をめぐりしていく。

退職者連絡会「第九回定期総会」開催

退職者連絡会は7月19日、本部会議室において「第九回定期総会」を開催した。幹事会を代表してあいさつに立った佐藤会長は「参議院議員選挙も終盤を迎えている。安倍政権の暴走を許さず、民主主義と平和主義を守るために、各推薦候補者の当選にむけて最後まで取り組むことを要請する」「現職、退職者問わずさまざまな課題がある。



〈退職者連絡会三役〉

会長	佐藤 光雄	再	高崎地本
副会長	中山 廣	再	東京地本
副会長	佐藤 善利	再	仙台地本
事務局長	織戸 邦治	再	千葉地本

豊かで生きがいのある生活をめざし、現・退一致で運動を進めていこう」と呼びかけた。
質疑では各地方選出の出席者より「当面の課題」に対する活発な討論が行われ、幹事会が提起したすべての議案が満場一致で承認された。なお、役員改選が行われ、佐藤会長をはじめ全三役が再任している。

私の○○ストーリー

高崎地方本部

井田 和男さん(JESS深谷駅)



JR東日本労働組合
高崎地方本部

1977年(昭和52年)4月、当時の国鉄に入社をし、高崎線の桶川駅、高崎駅、上尾駅の3駅だけで、約42年間のJR鉄道人生を終了して一年が経過しました。

現職当時は、勤務地に恵まれなかったと思っていました。どこかの支社にも駅の勤務地として同じ給料なのに、忙しい等の理由で人気のない職場は

う」と言われ続けていました。それでも私は「職場が嫌い」だとか「仕事がつきい」などと思ったりは一度もありませんでした。それはその職場を楽しんでいたからだと思います。考え方一つ、嫌々やっても24時間、楽しくやっても24時間だと、言いながら職場の仲間、特に若い社員と心を一つにして取り組むことがで



きたからです。たしかに異常時での対応や繁忙期の多客、賃改などの混雑対応は、心折れる程大変でした。それでも職場全員で乗り越えた後の達成感が有りました。
駅での仕事は、チームワークです。たとえ組織が違って仲間です。それは組合活動でも感じています。他の地方の若い組合員と知り合うことが本心に楽しかったです。



ただ、東日本ユニオン役員として高崎での組織拡大ができなかったことは、若い現職の皆さんには申し訳ない気持ちで一杯です。現在はエルダー組合員として深谷駅で勤務をしています。新一万円札の発表後、俄かに脚光を浴びている駅です。残りの鉄道人生は、この職場から若い仲間の皆さんの活動を手伝い、そして力強く応援していきます。